

第 81 期 中間報告書

平成17年4月1日 ▶ 平成17年9月30日





代表取締役社長

福島 孝一

表紙の写真

S = 亜鉛地金

M = 厚膜ペースト

M = 2 層めっき基板

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第81期中間決算を終了しましたので、ここに中間期（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）の業務の概況などについて、ご報告申し上げます。

当中間期のわが国経済は、設備投資の増加や個人消費の持ち直しが進むなど、緩やかな景気の回復が続きました。

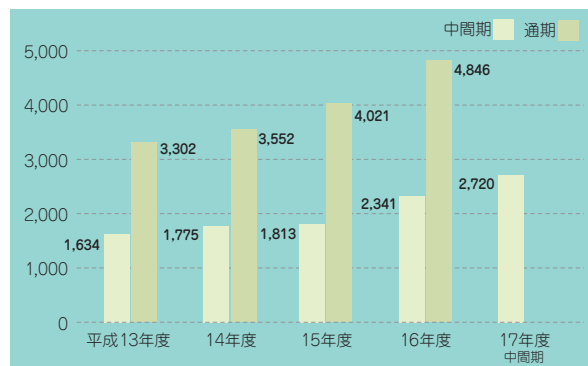
非鉄金属業界では、電子材料向け用途など一部は調整局面にありましたが、総じて底堅い需要が持続しました。また、非鉄金属価格は、ニッケルが後半に緩やかな下落基調となりましたが、銅は高騰を続けました。為替相場につきましては、緩やかな円安への動きが続きました。

エレクトロニクス関連業界では、電子機器・電子部品の在庫調整が終息に向かい、パソコン、液晶・自動車関連製品などを中心に、需要の回復が進みました。

当中間期の連結売上高は、金属および金属加工部門において銅およびニッケルの販売価格が上昇したことなどから、前年同期比378億70百万円増収の2,719

連結売上高

（単位：億円）



億97百万円となりました。

損益につきましては、非鉄金属価格の上昇および機能性材料事業の伸長などにより、たな卸資産の評価方法の変更に伴う一時的な増益のあった前年同期並みの連結営業利益を確保しました。これにP.T.インターナショナルニッケルインドネシアなど、持分法投資利益の増益による営業外損益の好転が加わり、連結経常利益は前年同期比38億47百万円増益の367億19百万円となりました。また、連結中間純利益は前年同期比25億52百万円増益の236億39百万円となりました。

中間配当につきましては、当初の予定どおり実施を見送らせていただきました。何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

下半期の見通しにつきましては、原油価格の動向など懸念要因はあるものの、企業収益の改善と個人消費の増加により景気は引き続き緩やかに回復するものと思われます。

当社グループは、このような状況のなか、平成16年度から3年間の中期経営計画に基づき、企業価値の最大化をめざした成長戦略を引き続き推進します。

資源部門、金属および金属加工部門では、10年後

の「非鉄メジャークラス」入りをめざして、海外資源の確保・開発に一層経営資源を投入し、自社鉱山の原料を相当量保有する「資源＋製錬」型の事業モデルへのさらなる転換を進めています。

電子材料および機能性材料部門では、それぞれの商品が世界トップクラスのシェアを占める存在感のある事業となることをめざしています。

(株)ジェー・シー・オーは、引き続き施設の維持管理、低レベル放射性廃棄物の保管管理、補償対応等に専念しています。当社は、同社がこれらに万全の態勢で取組むことができるよう今後も支援を行ってまいります。

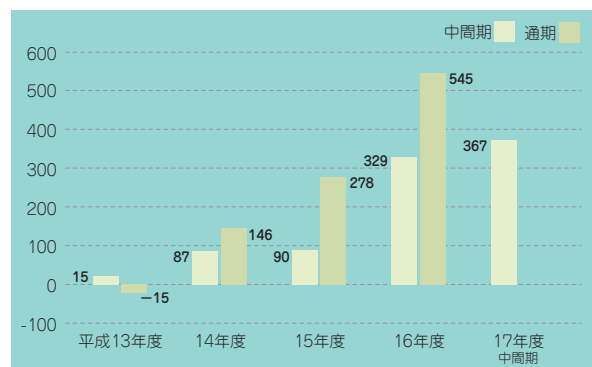
なお、期末配当につきましては、当初の予想を大きく上回る業績が見込まれることから、前期より1株当たり2円増配し、1株当たり10円の配当を予定しています。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年12月

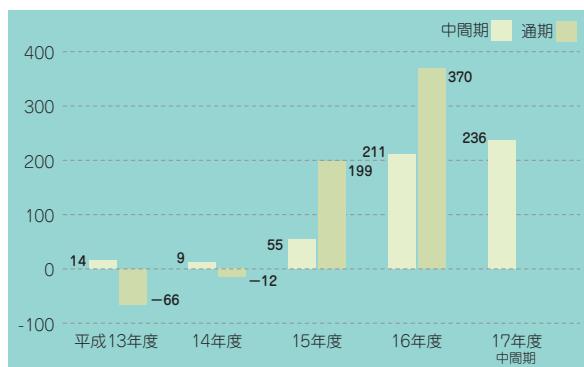
連結経常利益

(単位：億円)



連結中間（当期）純利益

(単位：億円)



資源部門

菱刈鉱山は、操業が引き続き順調に推移し、当中間期の金銀鉱の生産量は61,192 t（含有金量3,369kg）となりました。

海外において子会社等を通じて経営に参画しているモレンシー銅鉱山（米国）、ラ・カンデラリア銅鉱山（チリ）などの主要鉱山は、大雨や採掘場の崩落により一部操業に影響がありました。

米国アラスカ州においてテック コミンコ社（カナダ）とともに推進しているポゴ金鉱山開発プロジェクトは、建設資材費、人件費の高騰等により投資額は増加しますが、建設工事は本年9月末現在約85%まで完成し、平成18年3月の生産開始に向けて順調に進捗しています。

昨年度、当社は、フェルプス・ドッジ社（米国）が過半数の権益を有するペルーのセロ・ベルデ銅鉱山へ資本参加することとしましたが、本年6月、同

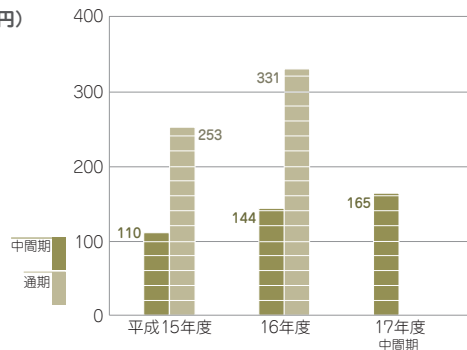
鉱山を保有するセロ・ベルデ社への日本側（当社8：住友商事(株)2）の出資比率が21%に決定しました。当社は、同鉱山の硫化鉱床新規開発プロジェクトにより平成18年秋から産出される予定の銅精鉱について、当初10年間50%分（年間銅量約9万 t）の買取権を取得しました。

また、チリのオホス・デル・サラド社に資本参加し、チリにおける銅探鉱（プンタ・デル・コブレ探鉱地区）および銅鉱山（オホス・デル・サラド銅鉱山）事業に参画することとなりました。日本側（当社8：住友商事(株)2）は本年中に出資し20%の権益を取得する予定です。

当部門の連結売上高は前年同期比15%増の165億38百万円となり、連結営業利益は前年同期比35%増の55億26百万円となりました。

部門売上高（連結）

（単位：億円）



ポゴ金鉱山開発プロジェクト（米国アラスカ州）

金属および金属加工部門

銅の国内販売量は、伸銅業界向けが在庫調整からの回復途上にあったものの、電線業界向けが、建設、電気機械、自動車などの需要により好調であったことから前年同期に比べ6%増加しました。一方、中国の購入が一服したことから、輸出を加えた総販売量は前年同期に比べ4%の増加となりました。海外相場は、銅地金の市場在庫の減少、海外大手生産者の生産障害により期を通じて上昇し、高値の更新が続きました。これらにより、売上高は前年同期比32%増加しました。

ニッケルは、ステンレス向けおよびエネルギー関連での特殊鋼向けが堅調であったものの、電子材料向けが在庫調整に転じた影響から販売量は前年同期に比べ7%減少しました。一方、海外相場は、前年同期以降も上昇を続けてきましたが、中間生産者の在庫増加を背景とする各国ステンレス生産

者の生産調整を受けて、当中間期後半には緩やかな下落基調に移りました。これらにより、売上高は前年同期比7%増加しました。

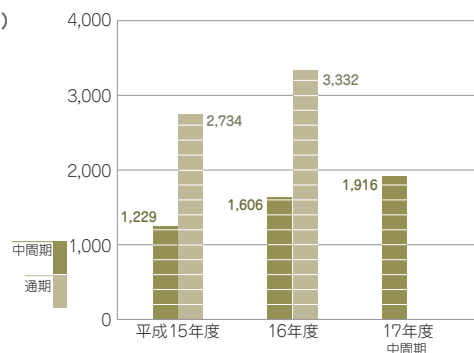
金は、販売量が前年同期に比べ減少したものの、海外相場が上昇したことから、売上高は前年同期比7%増加しました。

なお、フィリピンにおけるコーラルベイプロジェクト（低品位酸化ニッケル鉱の湿式処理プロジェクト）は本年4月に商業生産に移行しました。

当部門の連結売上高は前年同期比19%増の1,915億64百万円となりましたが、連結営業利益は前年同期にたな卸資産の評価方法の変更に伴う一時的な増益があったことから、前年同期比13%減の163億83百万円となりました。

部門売上高（連結）

（単位：億円）



東予工場（愛媛県西条市）

電子材料および機能性材料部門

電子材料事業

前期後半から続いていた電子機器、電子部品の在庫調整は当中間期の初めにはほぼ一段落し、需要は期中より回復に向かいました。特に携帯電話・パソコン・液晶・自動車関連部品などを中心に今後も堅調に推移するものと見込まれます。

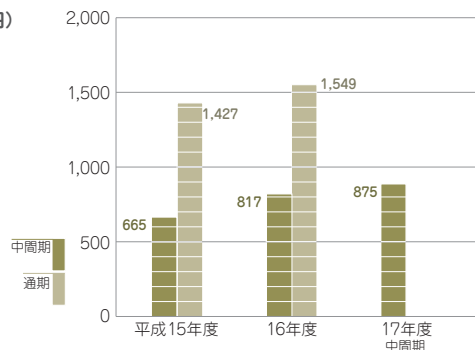
携帯電話向けのアロイプリフォーム、パソコン等に使用されるボンディングワイヤーが好調な受注を継続し、光通信関連部品（光アイソレータ）も、全国での光ファイバー化を背景に伸長しました。また、プリント配線基板などの電子部品の販売が堅調に推移しました。

しかしながら、全般に需要は回復基調にあるものの、海外リードフレーム市場などでの競争激化による販売価格の下落、素材価格の高騰などにより環境は厳しさを増しています。

このようななか、前期後半に中国で稼働を開始したボンディングワイヤー、リードフレームの新たな生産拠点について、増強を図りながら戦力化を進めました。国内では、効率的な経営資源配分のため三菱ガス化学(株)と光アイソレータ向け材料の希土類鉄ガーネット事業の統合を、また透明電極材料のIZOターゲット市場の急速な拡大に対応するため出光興産(株)と事業提携を行いました。

部門売上高（連結）

（単位：億円）



機能性材料事業

液晶テレビ、パソコン、DVDレコーダーをはじめとする電子機器向け材料市場は、旺盛な需要に支えられ全般的に堅調に推移しました。

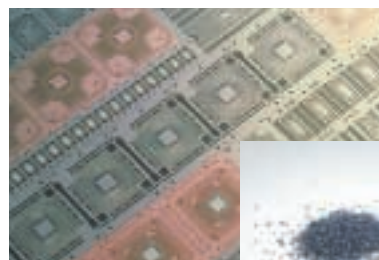
このようななか、液晶画面を表示させるICを実装するCOF（Chip On Film）基板等に使用される2層めっき基板は、急速に拡大している需要へ対応するため生産能力を増強し増販に努めた結果、前年同期に比べ2.0倍の売上高となりました。

電池材料は、ハイブリッド自動車バッテリー向けや高性能一次乾電池向けの水酸化ニッケルの増販等により、前年同期に比べ2.9倍の売上高となりました。

赤外線遮蔽効果を持つ日射遮蔽インクは、猛暑や地球温暖化などを背景とする冷房効率への関心の高まりにより、前年同期に比べ1.3倍の売上高となりました。

一方、積層セラミックコンデンサー（MLCC）に使用されるペースト向けニッケル粉は、電子機器市場の回復およびMLCCの高機能化による需要の伸長により前年同期に比べ増販になったものの、販売価格の下落により売上高は前年同期並みにとどまりました。

電子材料および機能性材料部門の連結売上高は前年同期比7%増の875億21百万円となりましたが、連結営業利益は前年同期比29%減の42億56百万円となりました。



リードフレーム



日射遮蔽インク

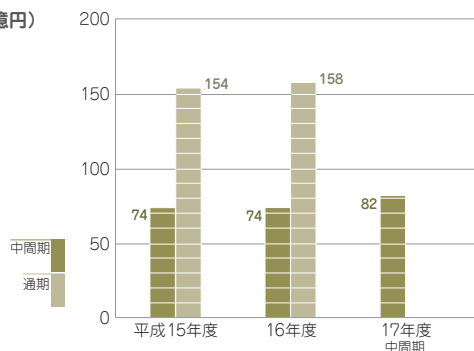
住宅・建材部門

ALC（軽量気泡コンクリート）は、需要の低下が底を入れる一方で、中国からの割安な輸入品の増加など悪化要因も発生しています。このようななか、拡販に努力するとともに、材料およびエネルギー価格の高騰を背景に販売価格の改善に注力しました。

当部門の連結売上高は前年同期比10%増の82億19百万円、連結営業利益は前年同期比74%増の10億80百万円となりました。

部門売上高（連結）

（単位：億円）



ALC（軽量気泡コンクリート）

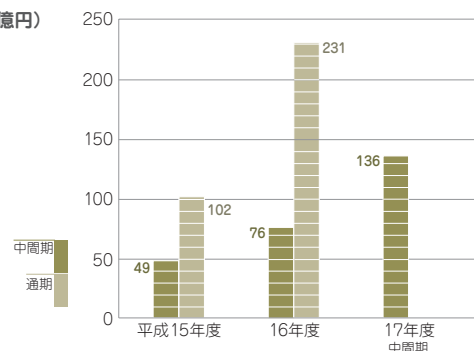
その他部門

使用済み脱硫触媒からの有価金属回収事業がモリブデンなどの金属価格の高騰により好調でした。

当部門の連結売上高は前年同期比79%増の136億36百万円、連結営業利益は前年同期比11倍の23億78百万円となりました。

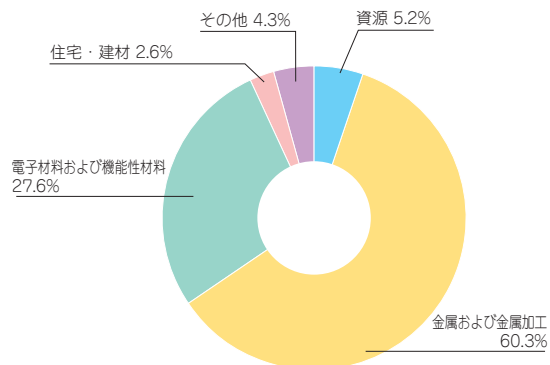
部門売上高（連結）

（単位：億円）



部門別連結売上高構成

※内部売上高を含む



中間連結貸借対照表

平成17年9月30日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	234,975	流動負債	181,509
現金および預金	25,414	支払手形および買掛金	36,452
受取手形および売掛金	69,873	短期借入金	65,964
たな卸資産	107,129	1年以内償還予定社債	20,000
その他	32,991	未払法人税等	10,913
貸倒引当金	△ 432	引当金	4,086
固定資産	426,263	その他	44,094
有形固定資産	(216,845)	固定負債	144,837
建物および構築物	71,308	社債	40,000
機械装置および車両・運搬具	85,245	長期借入金	65,137
土地	27,438	退職給付引当金	11,450
その他	32,854	その他の引当金	5,194
無形固定資産	(5,039)	連結調整勘定	59
投資その他の資産	(204,379)	その他	22,997
投資有価証券	197,449	負債合計	326,346
その他	7,441	(少数株主持分)	
貸倒引当金	△ 511	少数株主持分	18,937
		(資本の部)	
		資本金	88,355
		資本剰余金	81,193
		利益剰余金	132,785
		その他有価証券評価差額金	24,259
		為替換算調整勘定	△ 9,731
		自己株式	△ 906
		資本合計	315,955
資産合計	661,238	負債、少数株主持分および資本合計	661,238

※ 中間連結財務諸表の記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。

中間連結損益計算書

平成17年4月1日から平成17年9月30日まで

(単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	271,997
売上原価	224,950
売上総利益	47,047
販売費および一般管理費	17,760
営業利益	29,287
営業外収益	10,460
受取利息および受取配当金	885
持分法による投資利益	8,068
その他	1,507
営業外費用	3,028
支払利息	1,212
その他	1,816
経常利益	36,719
特別利益	93
固定資産売却益	77
貸倒引当金戻入額	10
投資有価証券売却益	6
特別損失	2,890
減損損失	1,564
環境対策引当金繰入額	598
固定資産除却損	578
災害損失	62
関係会社整理損失引当金繰入額	50
固定資産売却損	19
投資有価証券評価損	19
税金等調整前中間純利益	33,922
法人税、住民税および事業税	11,666
還付法人税等	2,236
法人税等調整額	812
少数株主利益（減算）	41
中間純利益	23,639

中間連結剰余金計算書

平成17年4月1日から平成17年9月30日まで

(単位：百万円)

科 目	金 額
(資本剰余金の部)	
資本剰余金期首残高	81,191
資本剰余金増加高	2
自己株式処分差益	2
資本剰余金中間期末残高	81,193
(利益剰余金の部)	
利益剰余金期首残高	113,762
利益剰余金増加高	23,639
中間純利益	23,639
利益剰余金減少高	4,616
配当金	4,564
取締役賞与金	52
利益剰余金中間期末残高	132,785

中間貸借対照表

(単位：百万円)

平成17年9月30日現在

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	206,907	流動負債	118,642
現金および預金	5,773	買掛金	20,087
受取手形および売掛金	42,151	短期借入金	29,163
たな卸資産	86,087	1年以内償還予定社債	20,000
短期貸付金	40,587	未払法人税等	8,664
その他	33,395	引当金	1,805
貸倒引当金	△ 1,086	その他	38,923
固定資産	281,285	固定負債	113,961
有形固定資産	(124,700)	社債	40,000
建物および構築物	45,159	長期借入金	46,295
機械および装置	45,063	退職給付引当金	6,489
土地	19,245	その他の引当金	5,301
その他	15,233	その他	15,876
無形固定資産	(2,346)	負債合計	232,603
投資その他の資産	(154,239)	(資本の部)	
投資有価証券	146,326	資本金	88,355
その他	8,486	資本剰余金	81,193
貸倒引当金	△ 281	資本準備金	81,184
投資損失引当金	△ 292	自己株式処分差益	9
		利益剰余金	63,665
		利益準備金	7,455
		任意積立金	32,595
		中間未処分利益	23,615
		その他有価証券評価差額金	23,282
		自己株式	△ 906
		資本合計	255,589
資産合計	488,192	負債および資本合計	488,192

※ 中間財務諸表の記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。

- (注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 150,761百万円
2. 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。
3. 仮払消費税等および仮受消費税等は相殺の上、流動資産の「その他」に含めて表示しております。
4. 所有権移転外ファイナンス・リース取引は、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。

中間損益計算書

平成17年4月1日から
平成17年9月30日まで

(単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	205,094
売上原価	171,808
売上総利益	33,286
販売費および一般管理費	10,986
営業利益	22,300
営業外収益	6,380
受取利息および受取配当金	4,602
その他	1,778
営業外費用	1,709
支払利息	619
その他	1,090
経常利益	26,971
特別利益	476
投資損失引当金戻入額	419
固定資産売却益	54
投資有価証券売却益	3
特別損失	1,512
減損損失	512
固定資産除売却損	470
関係会社支援損	310
環境対策引当金繰入額	89
災害損失	62
関係会社整理損失引当金繰入額	50
投資有価証券評価損	19
税引前中間純利益	25,935
法人税、住民税および事業税	8,608
還付法人税等	2,236
法人税等調整額	816
中間純利益	18,747
前期繰越利益	4,868
中間末処分利益	23,615

(注) 1株当たり中間純利益 32円86銭

10年後の「非鉄メジャークラス」入りをめざして

当社は、かねてから製錬事業の強化と優良資源の確保に努めてきましたが、中期経営計画に基づき海外資源開発に一層の経営資源を投入することにより、買鉱製錬型から「資源＋製錬」型への事業モデルの転換を進めています。

〈銅事業〉

●東予工場等の増強とコスト競争力強化

銅事業では、東予工場（愛媛県）の電気銅年間生産能力を平成19年以降に45万tとする計画を進めています。この目標は、昨年度までの能力の150%に相当し、単一の製錬所の生産能力としては世界最大級となります。当中間期には36.5万tへの増強を完了しました。現在の好環境下で能力を最大限に活用するとともに、平成18年度には41万tとし、着実に45万t体制をめざします。また、合併事業の金隆銅業有限公司（中国）でも本年の炉修時に生産能力15万tから21万tへの増強工事を行いました。

●銅鉱山・探鉱プロジェクトへの参加

銅資源の確保のために、東予工場の45万t体制時に自山鉱比率を3分の2とすることをめざし、本年6月、ペルーのセロ・ベルデ銅鉱山を保有するセロ・ベルデ社に資本参加しました。また、本年中にチリのオホス・デル・サラド銅鉱山を保有するオホス・デル・サラド社（フェルプス・ドッジ社の子会社）に資本参加する予定です。

〈ニッケル事業〉

●コーラルベイプロジェクトの商業生産開始

ニッケル事業では、コーラルベイプロジェクトが本年4月からニッケル・コバルト混合硫化物の商業生産を開始

しました。本年は年産約7千t（ニッケル地金量換算）の当初予定に対し、天候要因等により約5千tとなる見込みですが、平成18年には約1万tのフル生産を計画しており、電気ニッケルの新しい優良な原料ソースとなります。

●ゴロ・ニッケルプロジェクトへの参加

本年4月にニューカレドニアのゴロ・ニッケルプロジェクト（インコ社等のプロジェクト）へ日本側（当社11：三井物産株10）として21%の出資比率で資本参加しました。世界最大級のニッケル資源量を有し、酸化ニッケルを年間約6万t、炭酸コバルト同約4～5千t（いずれも地金量換算）を50年以上にわたって生産する計画で、操業コストなどの競争力も高い優良なプロジェクトです。当社は出資比率見合いの生産物を引取る権利を有します。操業開始は平成19年秋の予定です。

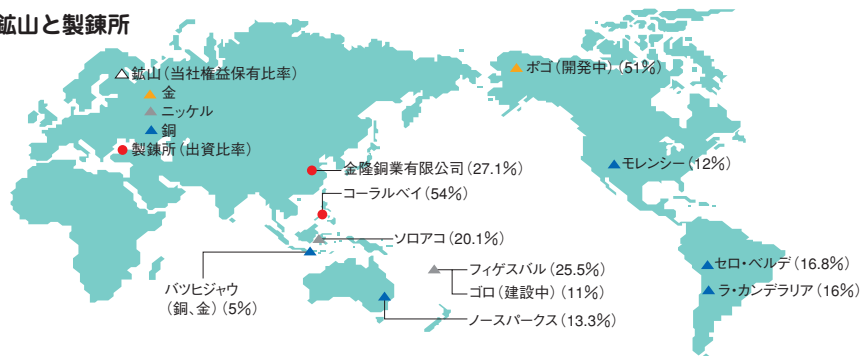
〈ポゴ金鉱山の開発〉

ポゴ金鉱山開発プロジェクトは、平成18年3月の生産開始に向け、建設工事が順調に進んでいます。開発投資額は、本年10月に建設資材の価格高騰などを踏まえて見直しを行い、総額357百万米ドル（従来見通し321百万米ドル）としました。

各プロジェクトは、現在の良好な事業環境を踏まえ、早期戦力化、収益化をめざしています。また、特に環境保全について、いずれの地域においても十全の対応を行っています。

今後もさらなる優良資源の確保に向けて、環太平洋地域を中心に探鉱を推進していきます。

当社保有の海外鉱山と製錬所



菱刈鉱山の操業状況について

菱刈鉱山（鹿児島県伊佐郡菱刈町）は、昭和60年7月の金生産開始から20年が経ちました。現在、坑道総延長は約80kmとなり、本年3月末現在の累計産金量は144 tとなりました。操業は順調に推移して、名実ともに日本を代表する鉱山となっています。

菱刈鉱山の金鉱床は、本鉱床・山田鉱床・山神鉱床の3鉱床からなり、坑内へは標高265mの本山坑坑口および標高233mの山田坑坑口の2箇所から斜坑によってアクセスします。現在稼働中の最深部の採掘場所は海面下30mのところにあり、坑口との高低差は約300mとなります。金鉱石は陸路にて加治木港を経由し、鉱石運搬船にて愛媛県の当社東予工場へ輸送され、金となります。

本年度は出鉱量18万5千 t（金銀鉱生産量12万9千 t、金量7.5 t）を予定しています。中期経営計画では「長期安定出鉱体制の確立」を目標に掲げ、出鉱量を年間18万 t から19万 t に増産することとしています。現在、最終年度の平成18年度に目標を達成するために鋭意努力を続けています。

また、菱刈鉱山では「クリーンで明るい地下工場」をつ



菱刈鉱山全景



金鉱脈

くるという理念に基づき、安全、環境の面でも地道な活動を続けてきました。平成12年6月に環境マネジメントシステムISO14001、平成14年8月に労働安全衛生マネジメントシステムOHSAS18001の認証を取得し、安全と環境に配慮した操業を行っています。

さらに、菱刈鉱山には安定操業による「収益の確保」のほかに、「海外展開に向けた人材育成強化」という役割があります。今後、当社は自ら海外鉱山を操業することをめざしますが、そのためには人材の育成が欠かせません。採鉱・探査の技術錬磨の場である菱刈鉱山の存在はますます大きくなっています。

菱刈鉱山が平成16年末現在で保有する埋蔵金量は152 tです。本年3月に独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構から、同機構が菱刈鉱山周辺で行った探鉱ボーリングで着脈を確認したと発表されましたが、ボーリング結果を1本1本検討しながら探鉱を進めていくため、全貌が判明するまでにはまだ数年単位での時間を要します。今後も坑内外から計画的に探鉱を行い、新たな埋蔵量を獲得して、鉱山寿命の延長を図っていきます。

会社の概要

商 号：住友金属鉱山株式会社
Sumitomo Metal Mining Co., Ltd.
創 業：天正18年(1590年)
設 立：昭和25年(1950年)3月1日
資 本 金：88,355,047,509円
代 表 者：代表取締役社長 福島孝一
従 業 員 数：2,099名(連結 8,905名)
株 式 の 状 況：会社が発行する株式の総数 1,000,000,000株
発行済株式の総数 571,872,794株

主要な事業所等

本 社：東京都港区新橋5丁目11番3号
支 社：大阪支社
支 店 等：名古屋支店
別子事業所(愛媛県新居浜市)
工 場 等：東予工場(愛媛県西条市)
ニッケル工場(愛媛県新居浜市)
播磨事業所(兵庫県加古郡播磨町)
四阪工場(愛媛県今治市)
機能性材料事業部(愛媛県新居浜市)
電子事業本部(東京都青梅市)
国富事業所(北海道岩内郡共和町)
鉱 山：菱刈鉱山(鹿児島県伊佐郡菱刈町)
研 究 所：市川研究所(千葉県市川市)
新居浜研究所(愛媛県新居浜市)
青梅研究所(東京都青梅市)
海 外 事 務 所：上海事務所

重要な子法人等

住友金属鉱山アメリカ(株) 住友金属鉱山アリゾナ(株)
住友金属鉱山オセアニア(株) (株)日向製錬所
住友金属鉱山伸銅(株) コーラルベイニッケル(株)
住友金属鉱山パッケージマテリアルズ(株)
大口電子(株) 住友金属鉱山アジアパシフィック(株)
エム・エスエムエムエレクトロニクス(株)
(株)伸光製作所 エス・エム・エム イーピー(株)
台湾住鉱電子(株) 住友金属鉱山シボレックス(株)

取締役および監査役

取 締 役 社 長※	福 島 孝 一
取 締 役※	荒 川 千 宣
取 締 役	千 原 宏 典
取 締 役	山 口 信 人
取 締 役	石 川 幸 男
取 締 役	牧 野 進 司
取 締 役	小 池 正 樹
常任監査役(常勤)	島 村 基 樹
監 査 役(常勤)	北 村 基 樹
監 査 役	太 田 元 勉
監 査 役	牛 嶋 勉

(注) 1.※印は、代表取締役であります。
2.監査役のうち、太田元氏および牛嶋勉氏は、
「株式会社」の監査等に関する商法の特例に
関する法律」第18条第1項に定める社外監査
役であります。

執行役員

社 長	福 島 孝 一
副 社 長	荒 川 千 宣
専 務 執 行 役 員	千 原 宏 典
専 務 執 行 役 員	山 口 信 人
専 務 執 行 役 員	石 川 幸 男
常 務 執 行 役 員	山 根 健 進
常 務 執 行 役 員	牧 野 進 司
常 務 執 行 役 員	持 原 正 樹
常 務 執 行 役 員	小 池 正 樹
常 務 執 行 役 員	阿 部 一 郎
執 行 役 員	富 野 光 太 郎
執 行 役 員	田 尻 直 樹
執 行 役 員	橋 中 克 彰
執 行 役 員	千 田 悦 三
執 行 役 員	馬 場 孝 正
執 行 役 員	家 守 伸 男
執 行 役 員	川 口 幸 佳
執 行 役 員	中 里 明 融
執 行 役 員	山 崎

決算期日 毎年3月31日
株主総会 定時株主総会 毎年6月
臨時株主総会 必要のつど
基準日 定時株主総会 3月31日
利益配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

名義書換代理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

同上取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

＜郵便物送付および電話照会先＞

〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

（住所変更等用紙のご請求） ☎0120-175-417

（その他のご照会） ☎0120-176-417

同上取次所 住友信託銀行株式会社
本店および全国各支店

公告掲載新聞 東京都において発行する日本経済新聞

＜単元未満株式買増および買取のご請求について＞

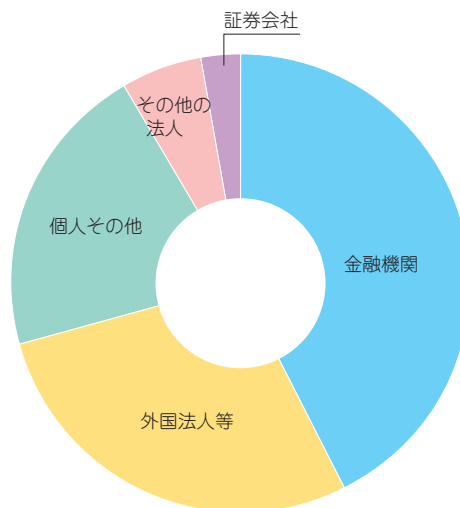
当社は単元未満株式の買増制度を導入しており、株主様がご所有の単元未満株式を1単元（1,000株）とするため、必要な数の株式の買増を当社に請求することができます。

なお、単元未満株式買取請求につきましても、従来どおりお取り扱いしております。詳細につきましては、上記名義書換代理人にご照会下さいますようお願い申し上げます。

所有者別所有株式数

（単元未満株式を除く）

	所有株式数	（株式数百分率）
金融機関	241,064千株	（42.5%）
外国法人等	160,133千株	（28.2%）
個人その他	117,733千株	（20.8%）
その他の法人	32,430千株	（ 5.7%）
証券会社	15,796千株	（ 2.8%）



資産保全の重量級。 住友の金地金千両箱。



松下由樹

先が見えない時代の変化に、
つい不安感がよぎります。
「金」は、いざというときの資産の保険。
世界共通の普遍的価値をもつ
確かな実物資産です。
日本一の金採掘量を誇る
菱刈鉱山を所有する住友では、
安心と信頼の「金地金千両箱」を
皆さまにお届けいたします。
重厚な紫檀の箱の中には10kgの金地金。
まさに重量級の実感の資産です。
先を見据えた資産として
この千両箱をお選びください。

揺るぎない将来への構えに。 重量級の実物資産。

- たとえば、
リタイア後の生活の備えとして。
- たとえば、
相続など資産継承をお考えの場合に。

1kg 金地金 5枚入り／10枚入り
参考価格：5枚入り／9,250,000円(税込)
10枚入り／18,500,000円(税込)
*金価格1gが1,850円(税込)の場合
*なお金価格は毎日変動いたします。

サイズ：縦150mm×横305mm×高さ72mm
重量(箱)：約2.5kg 材質：紫檀(シタン)
色：黒紫色の縞模様をもつ暗褐色

☎ 0120-277-992

資料請求／お問合せ：月～金 9時～18時(祝日／弊社休業日を除く)
金の売買は———：月～金 10時～16時(祝日／弊社休業日を除く)

✉ smm@mo-on.com FAXでも資料をご請求いただけます。24時間受付
件名または本文に「資料」と入力し、
上記アドレスにメールを送信してください。 ※住所、氏名、年齢を明記してください。
FAX 03-3436-7908

下記のURLでも資料をご請求いただけます。24時間受付
どこよりも詳しい
「金」の最新情報満載 www.sumitomo-gold.com

住友金属鉱山株式会社

〒105-8716 東京都港区新橋5丁目11番3号
TEL：(03)3436-7704
FAX：(03)3434-2215
URL：<http://www.smm.co.jp/>

R100
古紙配合率100%再生紙

PRINTED WITH
SOYINK™